

東塔土台「版築」で頑丈に

発掘調査で明らかになった東塔の構造を説明する青木さん（奈良市で）



国学院大・青木教授が講演

薬師寺月例

まほろば塾

日本人の心のあり方や豊かな伝統文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が21日、奈良

市の薬師寺で開かれた。解体修理を終えた東塔（国宝）について学ぶシリーズ（全3回）の1回目で、発掘調査を担当した国学院大の青木敬教授が講演し、約100人が聴き入った。

青木さんは、奈良文化財研究所の主任研究員などとして2014年から東塔の発掘調査を担当。塔を支え

る土台の基壇は、土を突き固める工法「版築」で頑丈に造られ、「表現しきれないほど固く、手間暇をかけた丁寧な仕事ぶりに感激した」と振り返った。

また、基壇周囲の装飾用の「地覆石」に使われた岩石の種類には、奈良時代の他の寺と異なる特徴がみられることを示し、藤原京の本薬師寺（橿原市）から部材を運んだか、部分的に移建した可能性がある」と説明した。

講演は6月中旬にまほろば塾ホームページで動画配信される（有料、まほろば塾推進の会会員は無料）。

次回は6月18日、塔頂部の「水煙」を調査した歴史材料科学が専門の村上隆さんが講演する。